

新春 マンガ

福永道子

(2)

郵便運配

元旦に着くなんて夢じゃ
ないかしら?

名人

カルタ取は下手なくせに木

びんく・こーなー



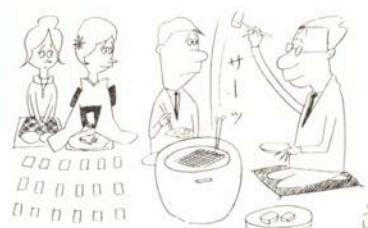
FINK CORNER



トソ気嫌
トラの敷皮ザーマスのよ



金詰まりのお年玉
このパチンコ玉でキャラメルでも
取ってきてな



「元日や去年の鬼が礼に来る」
それでも、大晦日は大変でしたね
次から次へと債鬼の襲来で、つい
に居留守を使うことにしました。
「留守だ。留守だ」と中からどな
つていると中をのぞきこんだ債鬼
の一人「でもあんたはそこにいる
じやないか」「何をいうか本人
がオレは留守だといつているんだ
これほど確かなことがあるか」ご
もつとも。朝っぱらから借金とり
がやつてきてドアをたたきます。
「うるさいな、ドバキ君なら散歩
に出かけたよ」とドバキ君がいい
ました。「あんたが誰かぐらいい
声でわかりますよ。あけてください
よ」そしてとうとう部屋へ入って
きて「そろご覧なさい。あんたは
ウソをついた」ウソなんかつかな
いよ。留守だといつたら留守だ
「でも、そこにクツがあります
よ」しかしドバキ君は借金とりを
部屋の外へ押しだしながら「朝は
ね、ボクはクツをはかずに入ります
ので出かけるのさ」ローラン君が
さんざハシゴをやって夜中にアパートへ戻つてくると細君はよその
男と寝ているようです。「コラ
お前と寝ている男はだれだ?
「また酔つているのね。あんた
じやないの」『そうか』と思つた
ものの「それじや、ここに立つて
いるオレはいつたいだれだい?』



初春に想う

陳舜臣

ると、はじめのうちは日本語がなかなか思い出せない。そしてもの一ヶ月ぐらいすると、もとのようになしゃべれるようになり、こんどは反対に台湾語のほうを忘れてしまう。今から考えると、その速度のはやいこと、驚くばかりである。一つのことに専念できたからであろう。

そのかわり別のほうは、速かに忘れ去るのだ。

二つ年上の兄貴が小学校へ入る前、いちど旧正に帰郷して、戻ってきたのが入学の直前だった。さあ困ったことになった。当時台湾人は日本籍だから、義務教育として必ず日本の学校へあがらねばならない。ところが、日本語をだいぶ忘れていた。子供心にも兄貴はだいぶさせられたとみえ、いつもなら自然に覚えててしまうのにその時ばかりは積極的に学ぼうとしたらしい。

ぼくたち兄弟が表通りへ出ようとすると、近所のいちめつ子に通せんぼされた「そこ退(ド)け」という言葉がどうしても思い出せない、以前によく使ったはずの言葉だから、もう喉元まで出かかっている。それなのに今一と息というところでひつかかっているのだ。ぼくたちは歯言葉さえ忘れているのだから、学校へ入ってからのこと

お正月が一番嬉しいのは、子供達である。年をとるにつれ、新しいを迎えるの激は、だんだん減るものらしい。仕事や身辺の雑事やらが気にかかる、新春の悦びに心をまかせ切ることができないのである。子供は一つのことにすぐ熱中することができる。みんなふうに没頭できたら、と子供達が羨しくなることがあるしかし、一つのことに夢中になると、彼らはほかのことをするつかり忘れてしまうものだ。大人は忘れないことが多いのに、悲しいかな、頭のなかから追い出すことがどうしてもできない。

まだ小学校にもあがらぬ頃、ぼくら一家は元町七丁目の路地に住んでいた。御多分に洩れず、日がな一日遊び暮したものだ。むろん同年輩の日本人の子供達と同じくらい日本語がしゃべれた。ぼくら一家は全員神戸に移っていたが、それでも当時はまだ故郷の台湾とは頻繁に往来した。ぼくたち兄弟もときどき帰郷した。ところが台湾へ帰ると台湾語ばかり使うものだから、短期間のうちに日本語を忘れてしまう。生活の本筋はすでに神戸にあるのだから、台湾にあまり長居もできない。帰郷といつても、せいぜい一ヶ月か二ヶ月だったろうか。それなりに、言葉をすっかり忘れてしまうのだ。神戸へ戻つてく

が思いやられる。ぼくも兄貴と一しょに、困った困った、ときりに幼い頭を悩ませたのをおぼえている。

「そうだ、うまい方法がある！」

と、兄貴は台湾語で叫んで、目をかがやかせた。ぼくたちはまた連れ立つて、こんどは鉄道線路のほうへ出た

まだ高架ではなく、汽車が地上を走っていた頃のことである。鉄道に沿った道には砂利が敷かれてあって、荷馬車や牛車が往来していた。当時トラックはあまりなかった

ように思う。宇治川の踏切が閉まるとき、荷馬車が何台もならんで待っていた光景が、いまも記憶に残っている。ぼくたち兄弟は、この砂利道に面した酒屋の倉庫の軒下で待っていた。そこへむこうから牛車がごろごろ音を立てながらやって来た。ぼくたちが待っていたのは、そいつだったのである。だいぶ近づいてから、兄貴はやにわにその前へとび出した。

「こらっ、そこ退(ド)け！」

手綱をとつていたおっさんがどなつた。

「わかった、わかった！」

兄貴は小おどりしながら駆け戻ってきた。ぼくもホツ

トした。ついに「そこ退(ド)け」という言葉を思い出したのである！手をとりあって、ぼくたちは家へ引揚げた。

何かの拍子に思い出してみると、じつに他愛のない言葉

で、そんなのをど忘れしていたのが不思議でならない。

二ヶ月ほど前には、近所の悪童たちを相手に、さかんに

この「そこ退(ド)け」を連発したというのに。

子供の頃おぼえようと努力したのはこれ一回きりである。

いつもしらすしらすのうちに会得してしまったとみ

ましくなる。ほかのこと心をわざわざされず、ただひたすら

友だちと遊ぶことに没入できた結果にちがいない。

指折りかぞえてお正月を待つ子供達みると、ほほえ

頃な晫みに年あらたまる感激もともかく薄れがちなわが

身が、なにか可哀そうでならない。何かに打ち込めば、

子供のように幸福になれるだろう。お正月に心から嬉し

そうな顔をしている人たちを、ぼくは尊敬したいと思う

そんな人は、ぼくの目に何か一筋のものに生きているよ

うに見えるからだ。

(作家)



天王谷の朝風呂

木 下

繁

発生したものばかりである。

六甲連山は神戸だけが持つ自然の財宝である。世界に誇る神戸の美觀も健康な雰囲気も、すべて六甲の山々がその源泉である。

豊かな水深と、底の固さで七つの海のマドロス達に親しまれているミナトも、宮水の功德でコクのある味を誇る灘の生一本も、赤道を越えて腐らないという自慢の飲水も、六甲の巨大な腹から生れ、又はこれあるが故に

に押し流された人の足は健康なそして深い懐を持つ山裾が吸収してくれるから他の都市に比べて神戸の美と健康が、偉大な天恵に保護されている訳である。

もう一つの六甲自慢——それは、あの巨腹に豊富な温泉の流れを持つてることである、天下の有馬はいうに及ばず、表六甲に、布引、天王谷、須磨等、ここ堀れワソ／＼ではないが随所に湯の楽園がある。

私は、平野は天王谷のはとりに住んでいる。約一キロ程離れたところに温泉浴場が二つあって、下の方の天王温泉の朝風呂で一ときの愉楽の時間を持つのが日課の一つである。

朝風呂といふものは仲々よきもので、冷たい水を、手桶で頭から五、六杯かぶつてから、温かい湯に、深々と五体を沈めると、血が躍り上り乍全身を駆廻つて、爽快この上もない。昨日（昨夜かも知れんが）の疲れ等一度にふつ飛んで、「われ今生きてこゝに在り」といったようないい心地がする。この温泉の客は大体常連である。

それも、時間で組が別れておつて、五時、六時、七時などいろいろあるが、私は大体七時組で、泉友会という組織を作つて、毎朝、や／＼てな具合に気分よろしく笑顔を交している、会長らしきものは海運界の宿老、田中卯三郎さんで、もう卅年を越す泉歴の所持者である。連なる泉友の面々には、医者、僧侶、神主、弁護士等道具建は一通り揃っている。

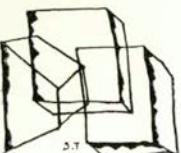
職業は違つても、素裸の身になると遠慮気嫌もなくいろいろな世間バナシに花が咲く。江戸時代の庶民に親

しまれた浮世風呂といふのも、このような雰囲気だったかも知れない。今は湯女等と称する艶っぽいのはいないが話上手な人がいて、政治、経済、社会、スポーツ等、季節もの、話題が豊富に持ち出される。

私はもっぱら聴き役に廻つて、冷水に濡らした亀の子束子で体をゴシゴシこすりながら、暇やかな世間バナシを耳にしていると、これも亦朝風呂の功德だな？と思う

朝風呂の功德はそれ丈けではない。何せ一糸纏わぬヌードの群像だから、おのがじしん両親から授かった、神圣な男の芯棒をぶら下げている。この頃は手拭で前を押えたりするような不心得者はまずいない。正に豪華絢爛たる聖器の展示会である。バタフライを並べたような女湯の単純な風景とは比較にならない壯觀である。歴然たる男女の差だ。

形体、ボリウムは千差万別で威風堂々辺りをヘイゲイするような尊大なものもあれば、泣き面をかいだような情ないものもある。又既に現役満期となつて悠々と晩年を静に暮している御隠居組もあるし、全身は斗魂といったような物凄い現役の強者組もある。人間は着物を身につけると嘘がつき纏うが裸の世界に嘘偽はない。ハダカこそ人間本来の姿であつて、そこにつくるせぬ興味があり、教訓がある。これも朝風呂の功德の一つである。私は六甲を語り、そこから湧き出る温泉の功德の数々を並べたてた。こんな天然の愉悦は、他の何処の都市でも味あうこととは出来まい。六甲さんよ有難とう。そして天王谷の朝風呂よ——ではこの辺で。（神戸市経済局長）



ト ラ 年 と タ イ ガ ル ス 村 山 実

「来年はおタクの年ですね。トラ年とタイガース。縁起がエエやおまへんか、ひとつ頑張ってくださいよ。期待してまっせ」若い僕など別にエトがどうのってあまりにならないがファンとはありがたいもんで電車のなかで見ず知らずの人がこう話しかけて、ポンと肩を叩いて出ていった。忘年会酒に酔っぱらってる風もなし、コチコチのタイガースなんだろう。おかしなもんといわれてみればトラ年とタイガースといえばなんだかい予感が湧いてきて、あらためて『やるぞ』と気合がのつてくる。シンクスなど毎日毎日が勝負のぼくたちにとってあまり考えたくないことが「いいシンクスならまあいいだろ」なんて虫のいいことを考えたがるものだ。

ところがシンクスといえばことしはあまりいい方の年じゃないんで少々気がかりなことがある。ぼくはことしでプロ生活四年目の春を迎えるとしているのだが、一年ごとに調子の波がやってくるような気がする。事実一年目はおかげさんで沢村賞をもらったり、まあ上出来のシーズンだったが二年目は内臓疾患やらあれやこれやでさっぱり。三年目はまた調子をとりもどしてなんとか二十勝することが出来た。この順番からいければことしはあんまり年かなとふと気になるときもある。だけどそんなこと気にしてたんでは野球なんかやれっこありませんからな。かえってファイトが出てきていいようなもんでも……。

そんなわけでことしも正月といっても名ばかりで、エッチラオッチラとトレーニングをやるつもり。ちょうど家の近くが芦屋の海岸なんでトレーニングにはもつてこいですからな。ぼくなど大体向う意気の強い方だから、なんといつても一番肝心なのはスタミナをつけること。下半身が弱くては話になりませんからね砂浜をザックザックと走ればその点いいトレーニングが出来る。学生時代からずっとづけてるので、別に苦にもならないし、第一胃がもたれて仕様がない。それよりはトレーニング

がエエやおまへんか、ひとつ頑張ってくださいよ。期待してまっせ」若い僕など別にエトがどうのってあまりにならないがファンとはありがたいもんで電車のなかで見ず知らずの人がこう話しかけて、ポンと肩を叩いて出ていった。忘年会酒に酔っぱらってる風もなし、コチコチのタイガースなんだろう。おかしなもんといわれてみればトラ年とタイガースといえばなんだかい予感が湧いてきて、あらためて『やるぞ』と気合がのつてくる。シンクスなど毎日毎日が勝負のぼくたちにとってあまり考えたくないことが「いいシンクスならまあいいだろ」なんて虫のいいことを考えたがるものだ。

ところがシンクスといえばことしはあまりいい方の年じゃないんで少々気がかりなことがある。ぼくはことしでプロ生活四年目の春を迎えるとしているのだが、一年ごとに調子の波がやってくるような気がする。事実一年目はおかげさんで沢村賞をもらったり、まあ上出来のシーズンだったが二年目は内臓疾患やらあれやこれやでさっぱり。三年目はまた調子をとりもどしてなんとか二十勝することが出来た。この順番からいければことしはあんまり年かなとふと気になるときもある。だけどそんなこと気にしてたんでは野球なんかやれっこありませんからな。かえってファイトが出てきていいようなもんでも……。

そんなわけでことしも正月といっても名ばかりで、エッチラオッチラとトレーニングをやるつもり。ちょうど家の近くが芦屋の海岸なんでトレーニングにはもつてこいですからな。ぼくなど大体向う意気の強い方だから、なんといつても一番肝心なのはスタミナをつけること。下半身が弱くては話になりませんからね砂浜をザックザックと走ればその点いいトレーニングが出来る。学生時代からずっとづけてるので、別に苦にもならないし、第一胃がもたれて仕様がない。それよりはトレーニング

で身体を鍛えておく方が身体のためにもいいし、商売もつながるのだから一石二鳥だ。正月そうそくから気ぜわしい話で恐縮だがスロー・スターターのぼくなどこのくらいいしてちょどいいかげん。なまけていたらとたんにおいてけぼりにされちゃう。

それに、ぼくは浜風をきいて走るとき、耳タブをジンと切るような冷たさがおそあ感触がまたなんともいえん好きなんですよ。実際に気分が爽快になる。胸のなかのわだかまりが吐き出されるみたいでね。元旦の気分を味うのはこれが一番。

野球の話ばかりになるが、一つ温泉治療もやってみようと思う。学生時代に肩を痛めて、さっぱりダメになつたことがあるが、あの時の気持ちといつたらほんとうにたまらない。それで人一倍気をつかうのだが、ことしはキャンプ前にトレーナーの和田さんと一緒に温泉にでも出かけて一、三日のんびり肩をもみほぐすつもり。一年一年。いや一日一日に最善を尽さないことはなんかもやもやして楽しくない性分なんですね。

こうしてトレーニングさえみつかりやつておけばまた夢も生まれる。「連続二十勝」これはもちろんやりたいけど、電車のなかで激励してくれたファンの人もいうように『トラ年とタイガースと優勝』こう結びつけてみたいものだ。とにかく一度でいいから甲子園で選手権がやつてみたい。プロ野球での優勝の感激はどんなもんか味わつてみたいですね。関大的ころ大学選手権で優勝した思い出があるが、実に愉快だった。そのためにはやはり『一発に泣く村山』などといわれないようにしなくては……。プロ入り四年目。そろそろファンのみなさんに冷や冷やしていただかなくていいピッチングをしてご期待にこたえたいものです。どうかよろしく。

(阪神タイガース投手)



嗚呼！われ四十才

宮崎修二朗

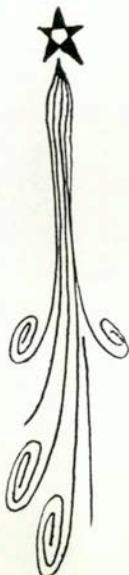
グレコ、よかつたわ。瞳を輝かせて、その女性はいつものでした。どれどれ、目録をのぞきこむと、これよこの「ヨクミセル女」がよかつた。ふーん。しかし、変やないか手拭で胸のところ押えて、ちつとも見えへんがな……と、よくよく作品名をみたら「浴みせる女」とありました。嗚呼！中年男はイヤだ。イヤだ。薬師寺を訪れた日のことです、団体客でごった返す境内を、そそくさとかきわけて、三重塔の下に立ち、フェノロサが『凍れる音楽』と評した水煙に見惚れてしまったら、うしろで二、三名の高校生が喋っているのが耳に入りました何や、ちっとも読まれへんがな。こっちに立札があるわゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なるひとひらの雲と立札の楷書の文字の方を読んで、この墓石のおっさん何やね。と一人が訊ねるとあほつ、知らんのか、あの要領のええやつじゃないか。あ、そうか。この会話の意味が理解できたのは、五分ほど後のことです。宇治川先陣争い佐々木高綱の墓が、薬師寺に建つたという珍説が、そこにはあつたわけで……文学碑ブームも所詮、新しい世代には無縁でというわけ。

「四十二シテワクワク、五十二シテ立タズ」なんていふことば。まずは四書五経を噛った老齢の方だと、違う

よ、「三十二シテ立チ、四十二シテ惑ワズ」と訂正して下さるだけ、その面白味がわかつて貰えません。

ところが新しい世代の方ですとワクワク、立タズかとニタリ、さもありなんと笑って下さいます。しかし孔子のおことばとの関連については全然お解りいただけません。二つの世代の『峠』（はざま）にいる悲しさと、安心感がしみじみとこたえる年令になりました。そんな男をつかまして、伴めはからかいます。神戸の中心はどこやねえん？さあて、ね。地図を抜けて思案投首の最中、俾めけらけらと打笑い、楠公さんやないか『嗚呼忠臣楠氏の墓』。あほ、楠氏やない、楠子や。せいぜい、それづくらの旧い役に立たぬ、ガクしかない親父です。神戸に渡られへん橋があるん知つとるか。知らんな。この前の水害で流れたんか？アホ、棧橋やないか。渡り切つたら、海に落ちる。嗚呼！愚かなる父よ。ほんなら神戸っ子と江戸っ子と、どう違う！違うやないか。そう思うやろ？しかし同じやねん。なんで？神（こう）戸（べ）と江（こう）戸（べ）やないか。てな、げいとうはしかし彼らにはできません。

（神戸新聞出版部長）



◆読者サロン◆

・先月号(12月)の表紙のナンテすてきなこと。いつも『神戸っ子』の表紙のセンスのよさに感心してるので、なかでも12月号の樂しかったこと。最高じゃない?

ゲストに黒木さんを招ねいての「宝石のアレコレ」もよかつたし、私たちにとっては憧れ(?)の橋サンの対談には嬉しくなりましたほんとうにXマスにふさわしいプレゼントでしたワ。ありがとう。こんどは同じ神戸出身の歌手佐川ミツオさんや神戸一郎さんたちのグラビヤか対談もとりあげてくださいね。

(神戸垂水区・天野昌子)

・神戸出身の江戸川乱歩賞作家、陳舜臣氏の作品がついに登場しましたな。いつ出るのかと実は待つてたのです。なぜって陳氏は生つての神戸っ子なんですから、受賞作品『枯草の根』を読んで僕はいつぶんに陳氏のファンになつたんです。一回切りでなく、神戸の作家としても大いにこれからも『神戸っ子』誌上をにぎわしてもらつてください。期待していますよ。

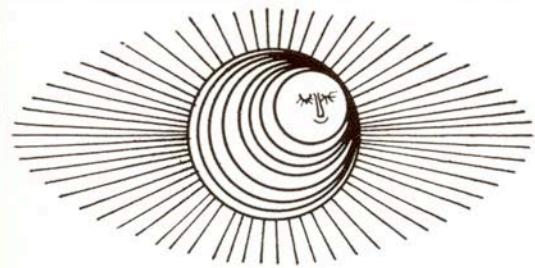
(神戸生田区・長谷洋一)

・神戸だからえがく夢 海洋博物館の話は前回の街のまん中のパーティ同様、イカス案ですね。佐々木侃司さんの絵はいつもたのしく拝見させていただいてます。ていねいな筆あとに佐々木氏のお人柄がしのべそう。これからもたのしい絵をみせてください。

(神戸生田区・三原貴男)

・随想『神戸に住むしあわせ』で、懐しい市来崎のり子さんが、お元気でいらっしゃることを知り喜んでます。

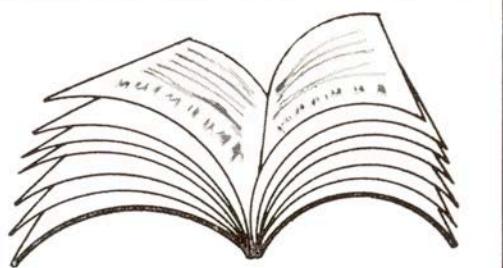
思いがけない神戸の友人のプレゼントといつしょに入っていた貴誌を拝見して、いろんな昔の神戸のことが思い出されました。ほんとうに神戸の香りがすみずみまでしみこんだそんな感じのする本ですね。映画戯評を書いてらした名村さんはたしか二年ほど下にいらしたはず。福富さんは大先輩、執筆者の方も欽松クラブのメンバーの方が多いのですつり感激です。みなさんのご活躍を期待しております。(東京渋谷区・旧県一卒生)



賀 正

太陽製版KK

神戸市兵庫区漆町一丁目高架3号 / TEL 製版部⑤0558・0586
写真部⑥4416



頌 春

三急出版

TEL ⑥ 0897

編集後記

— 52 —

・あけましておめでとうございます。威勢のいい「トラン年」の62年、「神戸っ子」は元気に心構えも新たにスタートです。どうぞ本年もよろしくご指導くださいますよう…。

・新春のプレゼントは、司馬、白川、竹中氏のトリオで贈る「新春放談」です。珍らしい顔ぶれに話題も豊富、ナマでお聞かせしたいほど。

・大先輩たちのお話を聞いて「神戸っ子」の不勉強さがしみじみ悲しくなりました。みなさん

大いに応援してくださいね。
・アンケート特集「神戸とわたし」はすい分とたくさんの方からのご協力をいただきました。この特集も「新春放談」同様、喜んでいただけたる所です。

・シア君の晴れ着姿、かわいいでしょ。このグラビア貞、お正月風景グラス神戸ならではの…という意図を込めていただければうれしいです。シア君は、「僕も神戸っ子」(NO.2)で茶目ッ気たっぷりな名タレントぶりを発揮してくれたトルコ少年です。

表紙の言葉

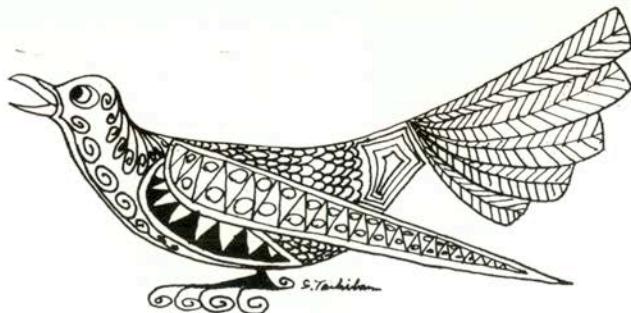
パリの近郊には、昔印象派や印象派後期の画家が好んで描いた美しい景色がずい分たくさん残っている。ゴツホの墓が近くにあるというポントワーズや、表紙の寺院（一昨年秋、渡仏した時の作品）があるモレーもともに『写生地』として今も多くの画家たちに愛されている。

小磯良平（新制作）

神戸の女性

神戸女学院大学英文科2年生の竹内慶子さん、英語は私設ガイドが結構いけるという調子のいいもの。港に入る船を背景にするとエキゾチックな神戸の明るき清潔さを創りだしているという感じ。テニスもやればハワイアンのウクレレも楽しむというモダンな神戸っ娘です。

撮影 杉尾友士郎



月刊「神戸っ子」案内

・今月は企画の都合で「花時計」「レリーフ」「うまいものコーナー」は休載しましたが悪しからずところで月日の発つのは早いもの。一年前の今頃は——そうそうオトソ気分もよそに創刊号を出すのに走りました。そしてアレから一年の今は——やはり多忙、でもうれしいことです。今年も元気に走り続けましょ。

(1)

★月刊「神戸っ子」を毎月御講読下さいます方、神戸を離れているお友達にプレゼントなさいたい方は編集室宛にお申込下さい。6ヶ月分・500円(送料込み)
★誌上紹介の各神戸の銘店にはお客様へのサービス品として「神戸っ子」がおかれています。
★「神戸っ子」をお求めのときは左記の本屋さんでどうぞ。

漢文堂・洋文堂・元町3丁目
日東口・流泉書房・丸大筋角前街

月刊「神戸っ子」新年号・発行/S 37,1,15・編集/五十嵐恭子・発行/小泉康夫
編集室/神戸市葺合区御幸通8丁目9ノ1 国際会館1階・TEL 27037・価格70円

お経に色々と
お話をいたしました。

吉秀百官松古面中直家出田道母白松古後久小守著和金大小路岡根有
杉崎地共山高西木井中竹川路川本林修保秋穂の西井源治郎助並木
了辰養高達方太達徳孝親二　一　喜木金井良正　元　喜伊真正達
三雄二男大義源郎七郎介二郎源勝榮二郎大平治榮彦　道子　一　進

環境衛生は

ゴミ箱から！

フタがキツチリしまるので、ハエや
ゴキブリがはいりません。ツギ目が
ないから洗たくもOK。ボリベール
は衛生的なゴミ容器です。神戸の環
境衛生は清潔なゴミ箱からおはじめ
ください。

小売価格
1800円

硬質ポリエチレン製
新家庭にぜひお備え下さい

セキスイ

ポリペール

プラスチックの積水化学

完全自動による 霜のつかない 電気冷蔵庫誕生！

霜取りが自動的にできる、わが国最初のジェットサイクル装置付きです。運転率によって、周期的に自動除霜をし、排水した水を蒸発する装置です。また、SMタイプ・コンプレッサーの性能は、世界一級の折紙付き。内容積は、10%（ビール13本分）のアップです。

家庭用標準型／全内容100リットル
NR-100Z型

現正価 58,000円

定価 61,000円



電気冷蔵庫のお求めは
お近くの行き届いたアフター・サービスの
ナショナル連盟店で

